

# 科学的介護情報システム(LIFE) 第2回説明会

フィードバック活用事例概要

令和8年3月16日・3月19日実施

# 事例① 鈴鹿グリーンホーム(介護老人福祉施設)

## 取組①

### ■ 取組内容のポイント

- 令和6年度、生活・認知機能尺度の各評価項目を分析し、自施設の取組の成果を確認

施設の状況を経時的に確認するため事業所フィードバックを確認していたところ、自施設は認知症の方が多いにもかかわらず生活・認知機能尺度で評価が高い項目があることに疑問を持ち、各項目を詳しく分析した。

- 令和7年度も継続して事業所フィードバックを用いて自施設の認知症ケアの状況を確認

## 取組②

### ■ 取組内容のポイント

- 令和6年度、歯の汚れが「あり」の割合が増加していたため、口腔ケアについて現場職員へ注意喚起

施設の状況を経時的に確認するため事業所フィードバックを確認していたところ、2024年10月のフィードバックで変化に気付いた。

- 令和7年度も口腔ケアの改善状況について引き続き確認・改善を実施

## 説明内容の補足情報

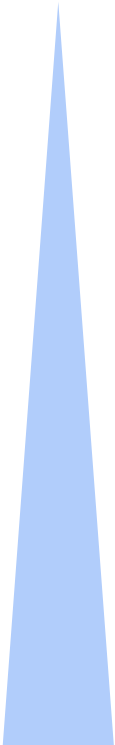
---

以降のご説明内容に含まれる  
「障害高齢者の日常生活自立度」、「認知症高齢者の日常生活自立度」、  
「生活・認知機能尺度」についての補足情報です。

# 障害高齢者の日常生活自立度

以下の判定基準を参考に、該当するものを選択します。

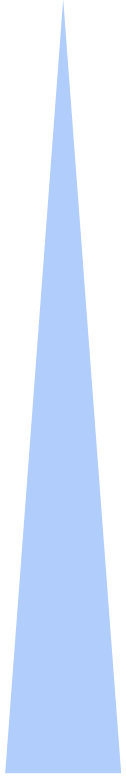
程度が軽い

	生活自立	ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1. 交通機関等を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
	準寝たきり	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
	寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車いすに移乗する
		ランク C	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうてない

程度が重い ※ 評価に当たっては、補装具や自助具等の器具を使用した状態であっても差し支えない。

# 認知症高齢者の日常生活自立度

以下の判定基準を参考に、該当するものを選択します。



ランク	判断基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
IIa	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等。
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対応など一人で留守番ができない等。
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
IIIa	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等。
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。	ランクIIIaに同じ。
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等。

# 生活・認知機能尺度

利用者の認知機能・生活機能を簡便に評価することを目的に開発された指標です。

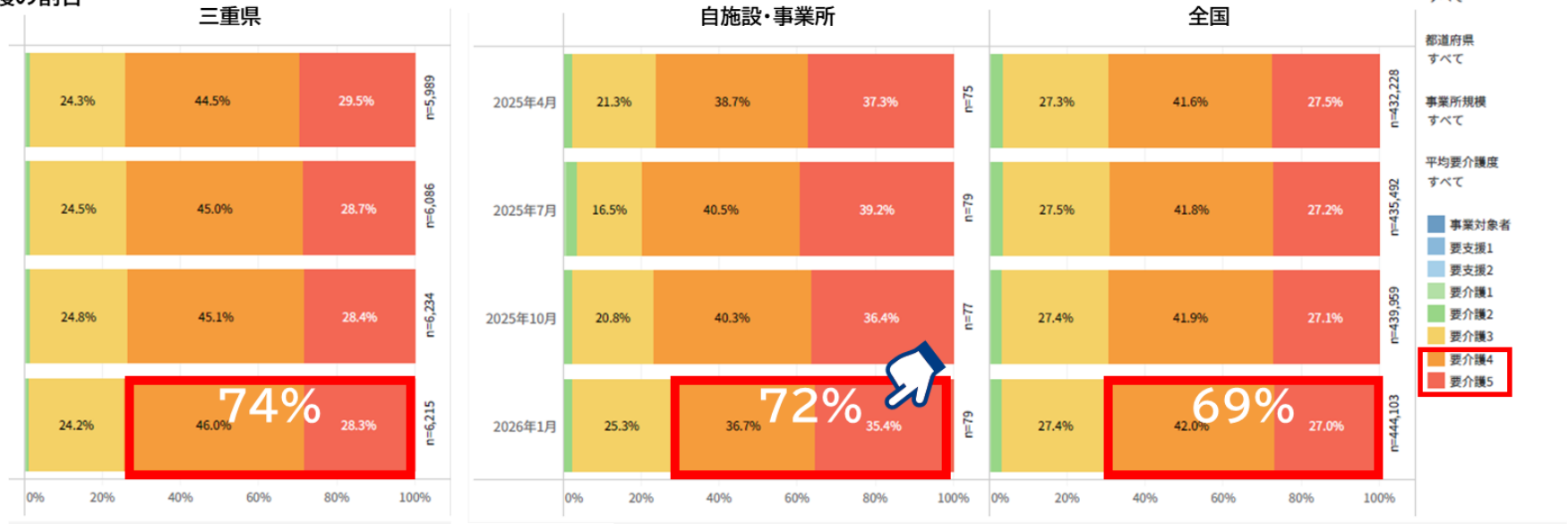
全項目の合計点数を算出します。

認知機能が高い利用者は得点が高くなり、認知機能が低い利用者は得点が低くなります。

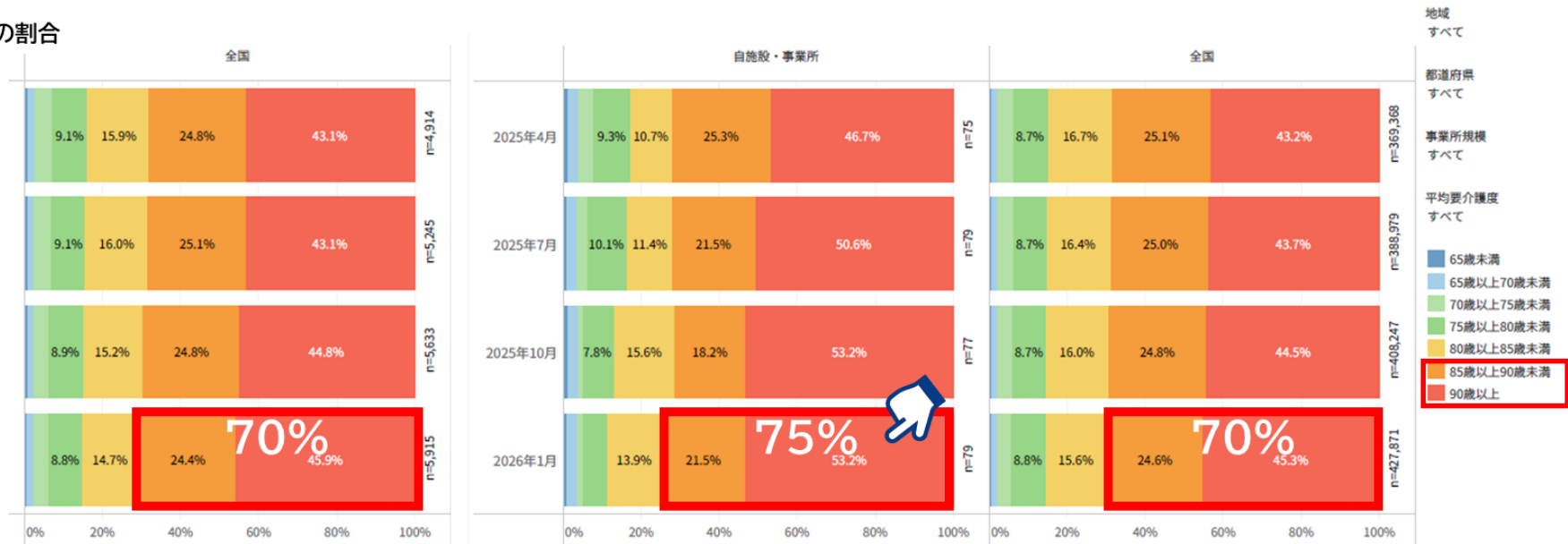
No.	評価項目
①-1	身近なもの(たとえば、メガネや入れ歯、財布、上着、鍵など)を置いた場所を覚えていますか
①-2	身の回りに起こった日常的な出来事(たとえば、食事、入浴、リハビリテーションや外出など)をどのくらいの期間、覚えていますか
②	現在の日付や場所等についてどの程度認識できますか
③	誰かに何かを伝えたいと思っているとき、どれくらい会話でそれを伝えることができますか
④	一人で服薬ができますか
⑤	一人で着替えることができますか
⑥	テレビやエアコンなどの電化製品を操作できますか

# 事例① 鈴鹿グリーンホーム(介護老人福祉施設)

## ■ 要介護の割合

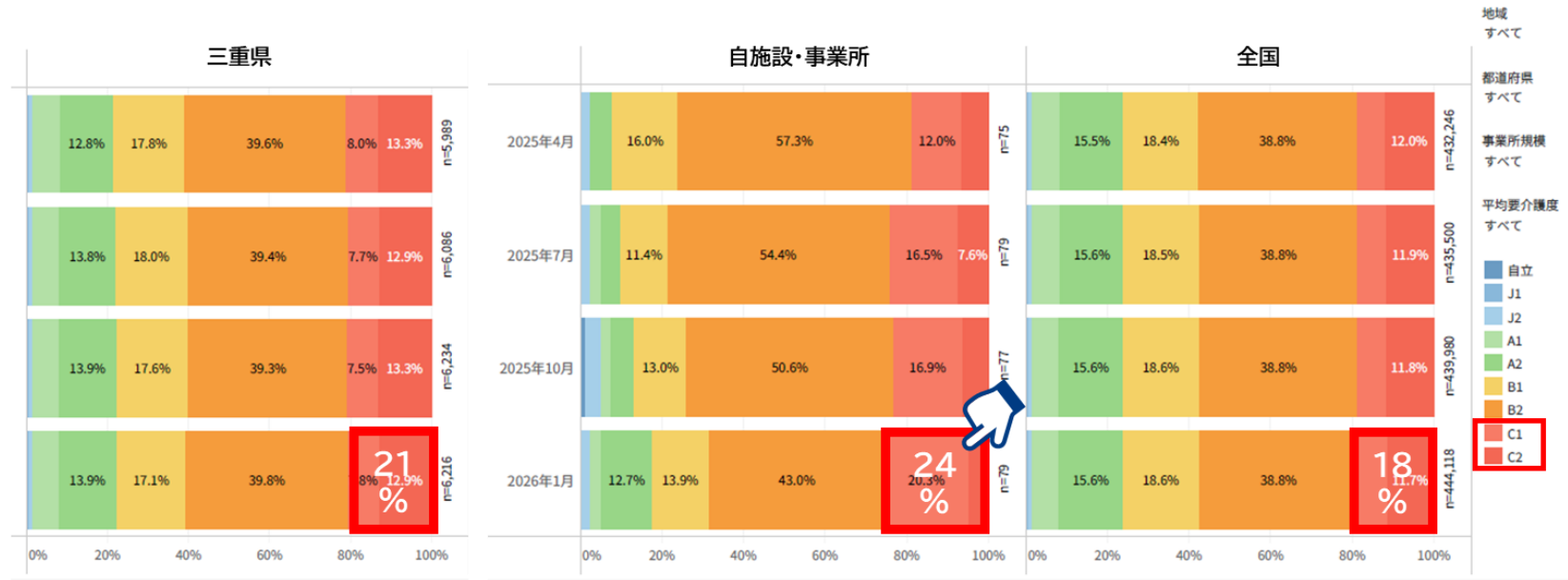


## ■ 年齢の割合

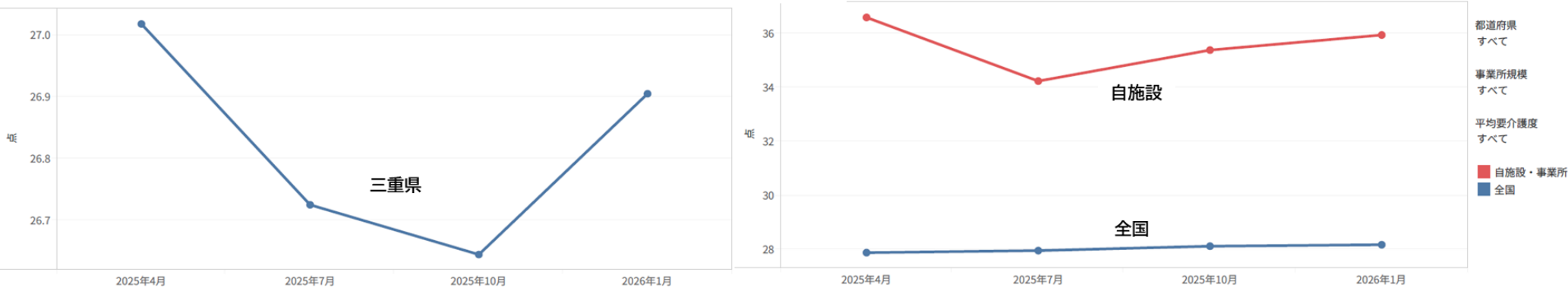


# 事例① 鈴鹿グリーンホーム(介護老人福祉施設)

## ■ 障害高齢者の日常生活自立度の割合

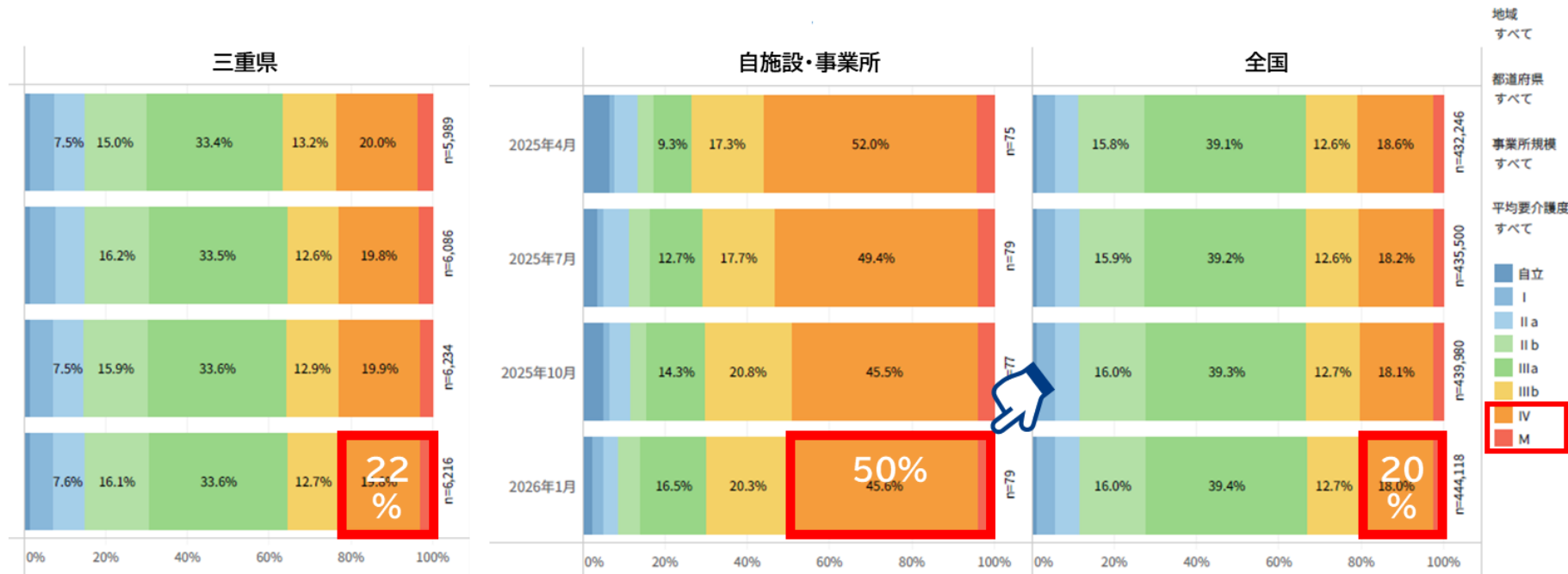


## ■ ADL合計点



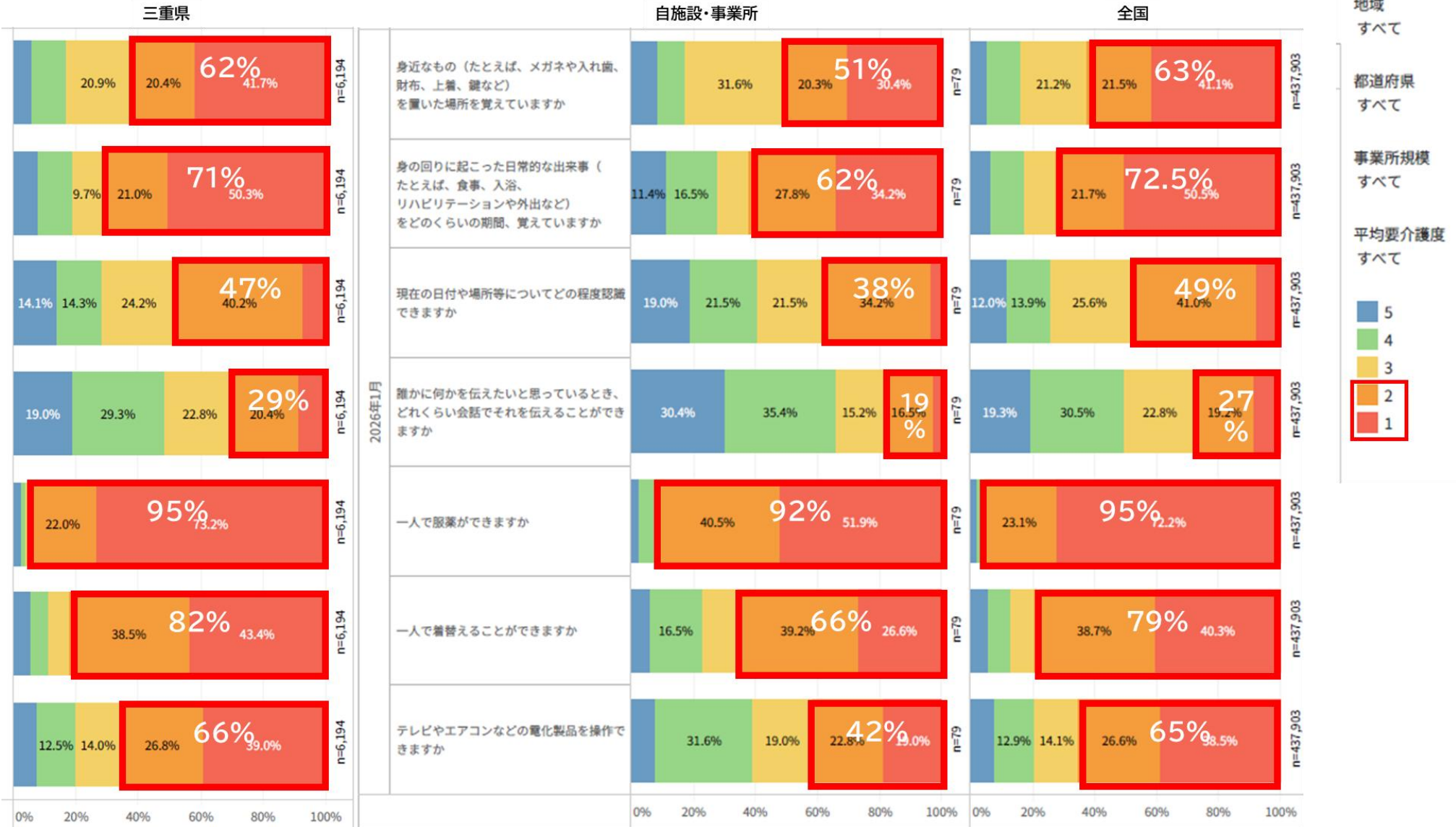
# 事例① 鈴鹿グリーンホーム(介護老人福祉施設)

## ■ 認知症高齢者の日常生活自立度の割合



# 事例① 鈴鹿グリーンホーム(介護老人福祉施設)

## ■ 生活・認知機能尺度の割合



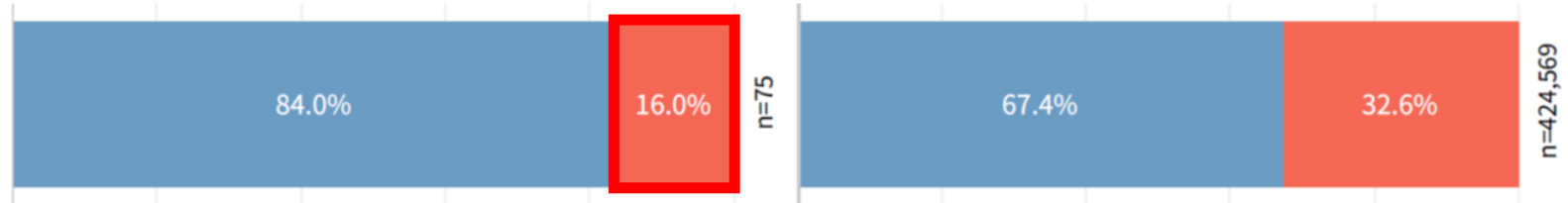
# 事例① 鈴鹿グリーンホーム(介護老人福祉施設)

2025年4月

自施設・事業所

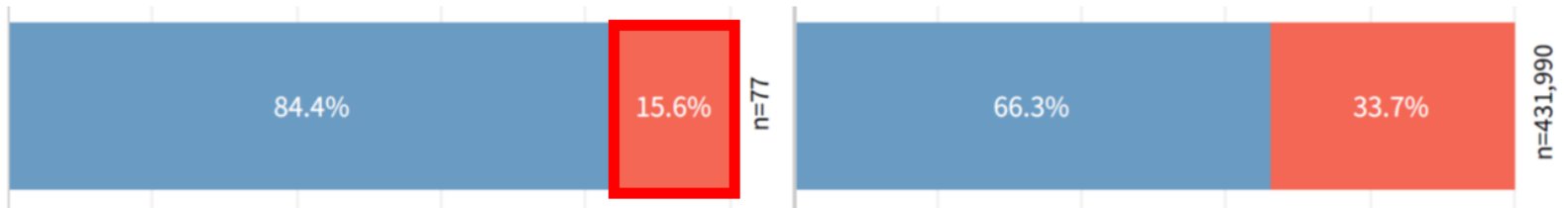
全国

歯の汚れ



2025年10月

歯の汚れ



# 事例② 特別養護老人ホーム菅名の里(介護老人福祉施設)

## ■ 取組内容のポイント

### 課題

- **データを読みなれていない職員も含めた体制整備**

事業所フィードバックより、「データから気付くことはあるか」とのみ尋ねても、解釈を引き出すことは難しい

### 解決策・取組

- **事業所フィードバック用いた議論を効果的に行うため、グラフの着目ポイントや考察の例を記載した資料を委員会前に配布**

- **委員会での議論により、自施設の特徴をふまえたケアの工夫を検討**

入居者に一番近い場所でケアする介護職員にも取組の目的等を丁寧に説明したことで、計画書の内容をより深く理解して対応してもらえるようになった

# 事例② 特別養護老人ホーム菅名の里(介護老人福祉施設)

## 【考察の例】

### ※2024/4～2025/1月分フィードバックについて

◎比較対象:自事業所(平均介護度4.3:定員80名)/全国・平均介護度4.0～4.5:事業所規模78名以上で抽出

#### ●総評

全国と自施設の平均要介護度に対する年齢層を比較すると全国より要介護5、90歳以上割合が少なく、80歳台の介護5が多い。また、自施設の日常生活自立度はほぼB1以上であり、全国と2割程度違いが見られる。それに対し、認知症自立度は全国よりもⅢa以上の割合が2割程度少ないことから、身体は不自由だが認知度は比較的維持されている方が多いことが読み取れる。

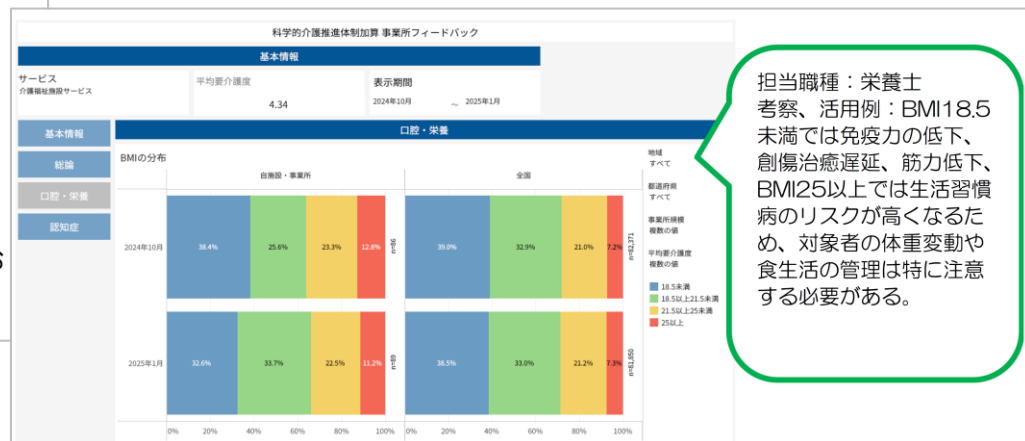
#### ●各加算別で見ると

自立支援では、日中の離床時間を全国と比較すると6時間以上離床の割合が少なく、排泄状況においては夜間のトイレ使用者の割合は多いも、日中は少ない結果が出ているが、全国と同様の施設と比較し、認知症自立度が低い方の割合が多いことから、起きていられる人でも「横になりたい」「寝たい」等、個々の訴えや生活パターン、残存機能に沿ったケアが行えていると考えられる。

個別訓練では、状態を見ながら残存機能を訓練できるADL訓練の割合が高く、認知症自立度が低いという長所を活かしながら個別機能訓練を実施できていると言える。またADL項目の基本動作においても、全介助にとどめるのではなく、個々の残存機能を多職種で見極めながら介助に活かすことや苦手な部分をケアする流れが出来ているために一部介助以上の割合が多くできていると考えている。

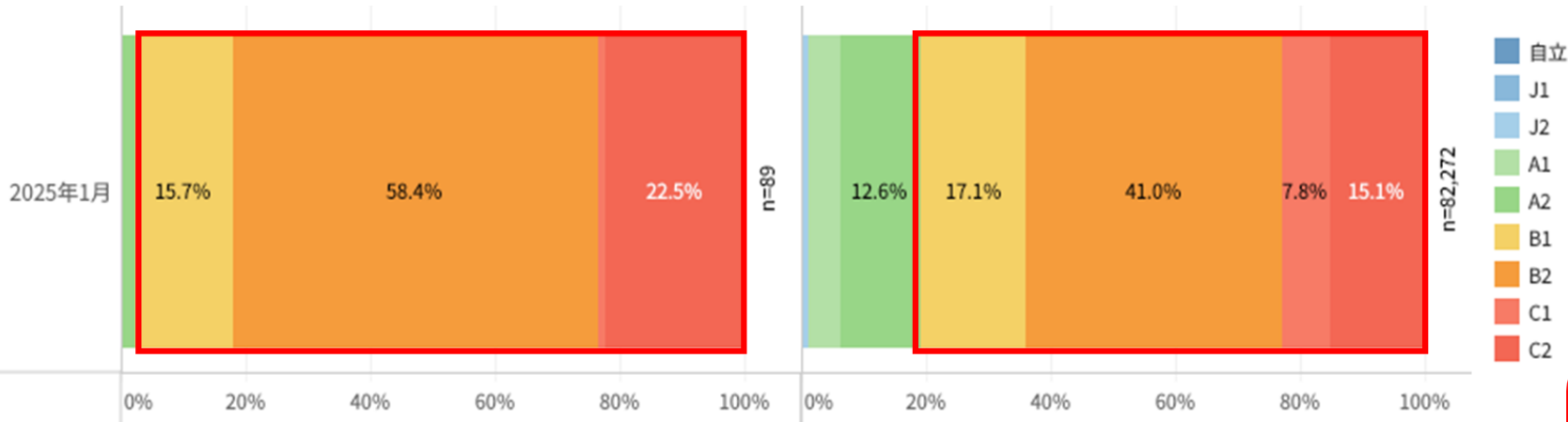
排泄では、自施設ではトイレ動作が「一部介助」「全介助」の数値が高いが、ノーリフトケア推進により、トイレ動作時に抱える介助が必要な方の誘導を見直したことが要因と考える。ただし、トイレでの排泄希望があり、「ひざたち」を使用することでトイレでの排泄が行えている方に対しては委員会が中心となって管理しており、自立支援や残存機能維持に繋げる事が出来ているのではないかと考える。また、全国と比較しておむつを使用している入居者の割合は多いが、おむつを外せた方の割合も多い為、入居者の能力を把握したうえで対応方法の検討が出来ていると考える。

Excel上に考察を記載し、事業所フィードバックを添付したうえで、委員会内で各職種の気づきを記録している

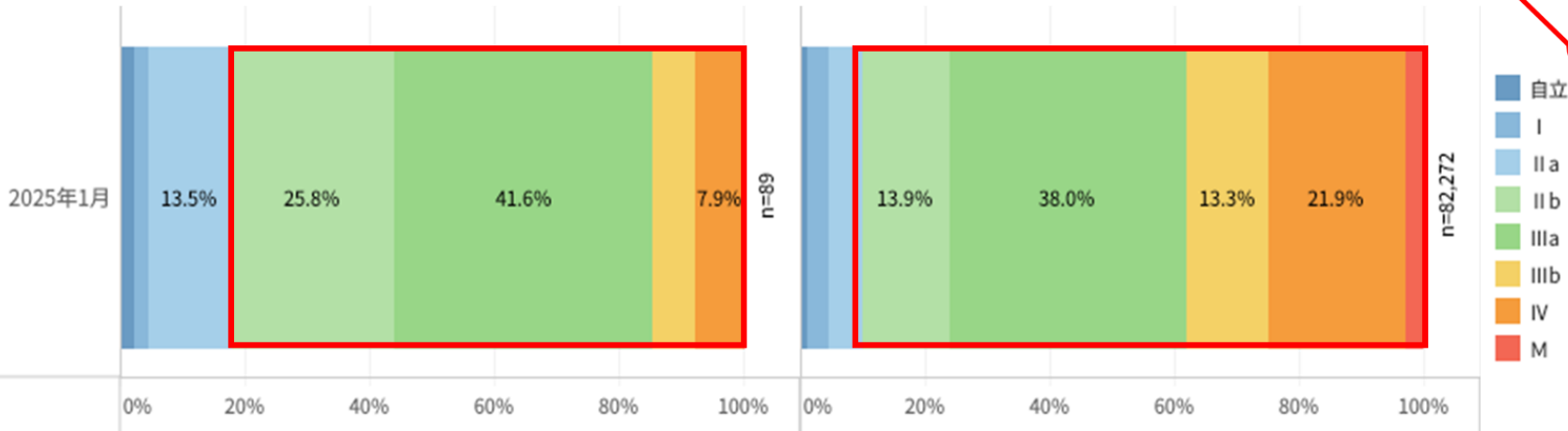


# 事例② 特別養護老人ホーム菅名の里(介護老人福祉施設)

## 障害高齢者の日常生活自立度



## 認知症高齢者の日常生活自立度



身体は不自由だが、  
認知機能は  
維持されている方が  
多いと解釈

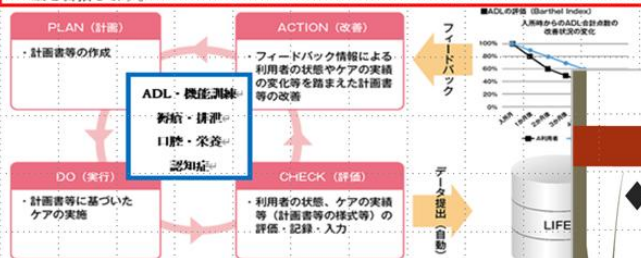
# 事例② 特別養護老人ホーム菅名の里(介護老人福祉施設)

## 科学的介護システム (LIFE) フィードバック活用について

LIFEの概要や、施設としての活用方針等をお伝えしている

### LIFEとは・・・

- 科学的介護システム(LIFE)は、介護施設・事業所が介護サービス利用者の状態や行っているケアの計画・内容等(計画書の様式等)の情報を、一定の様式で厚生労働省へ送信すると、送信されたデータに基づきフィードバックされる情報システムです。
- 介護施設・事業所では、提供されたフィードバックを活用し、PDCAサイクルを活用し、介護の質向上を目指します。



### 今後の課題と方向性②

#### ◆利用者フィードバックの活用

各種計画書の比較はしやすくなったがデータ量が膨大な為、カンファレンスやケア内容見直しなど、必要時に活用する。

#### ◆フィードバックの実施

LIFEに関する各計画書は、委員会や専門職が中心となり支援計画立案から実施・評価が行えるようになった。今後はフィードバックされてきたデータを各職種が読み解く経験を積み、ケアの裏付けや入居者個々に合わせた自立支援の活用につなげる。

## ■ 取組内容のポイント

### きっかけ

#### ● 利用者の栄養状態の低下

高齢化率が高く独居も多い地域で、栄養状態の悪化が懸念された。



### 解決策・取組

#### ● 科学的介護推進体制加算の事業所フィードバックを確認

毎年夏頃に、利用者の食欲が落ち、低栄養リスクが高まっていたことを確認

#### ● 事業所フィードバックを根拠に、栄養に関する支援を実施

「夏バテ予防に効果的な栄養について」という講習会を実施

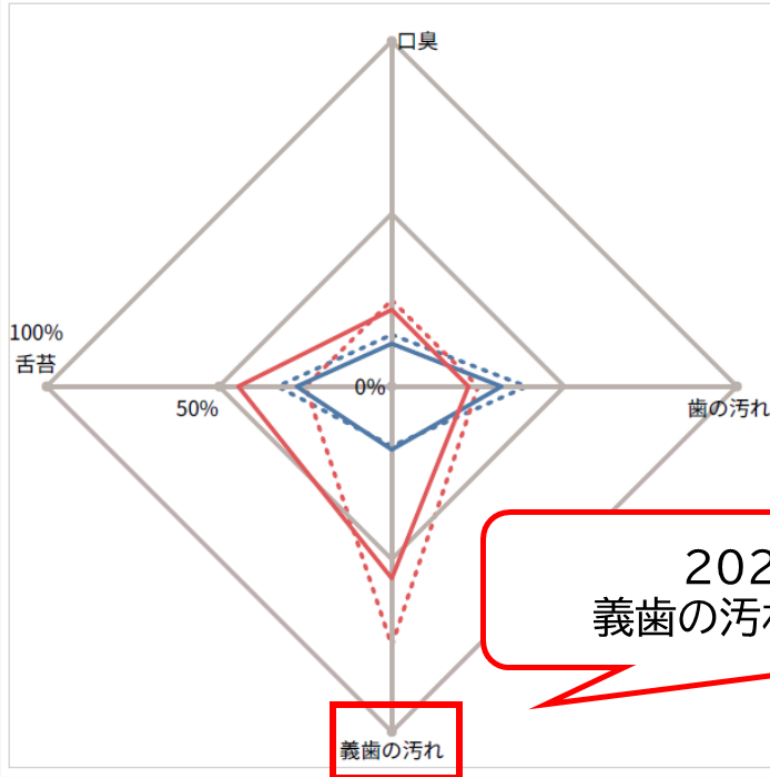
#### ● 実施後に事業所フィードバックで成果を確認

データを基に成果を確認し、利用者の栄養状態が改善されていることを確認

# 事例③ 介護老人保健施設仁寿苑(通所リハビリテーション)

## 口腔衛生状態の各項目が「あり」の利用者の割合

口腔衛生状態の各項目が「あり」の利用者の割合



比較時点1 (実線)  
2025年2月

比較時点2 (点線)  
2024年5月

地域  
すべて

都道府県  
すべて

事業所規模  
すべて

平均要介護度  
すべて

■ 自施設・事業所  
■ 全国  
■ 基準

(リハ・栄養・口腔 事業所フィードバック)

# 事例③ 介護老人保健施設仁寿苑(通所リハビリテーション)

高齢者の筋力やバランス能力を高めるパワーリハビリの実施や、  
食事面の栄養マネジメントの取組により、  
食欲が改善し筋力低下を抑制することができた

2024年5月から2025年2月にかけて  
筋力低下が「あり」の人数が減少

機能障害が「あり」の人数



(リハビリテーションマネジメント加算等 事業所フィードバック)

# 事例④ ツクイ仙台八乙女(通所介護)

## 取組①

### ■ 取組内容のポイント

#### 課題

#### ● 各職員の加算への興味・関心を醸成するためのLIFE活用

各職員が事業所で算定している加算についてどこまで理解しているか不明だった。

まずは、職員を対象に自分たちが算定している加算について、どのようなものか理解し、興味を持ってもらうことが課題だった。



#### 解決策・取組

#### ● 事業所職員全体に向けたLIFEの説明(教育)と、フィードバックを閲覧しやすい環境を整備

事業所としてフィードバックの活用場面を検討し、事業所内・外に向けた情報共有・発信を実施

## 取組②

### ■ 取組内容のポイント

#### 課題

#### ● 個別ケアの見直しに向けたLIFE活用を模索

法人からの働きかけもあり、事業所内でどのようにLIFEのフィードバックを活用していくかを考えていた。



#### 解決策・取組

#### ● 個別ケア会議前に対象利用者の利用者フィードバックを確認

利用者ごとに利用者フィードバックによる経時的変化・全国的な傾向を踏まえ、今後の支援内容を検討することとした。

# (参考)利活用に関する事例集の掲載先について

- 本日ご紹介した事例は、LIFE利活用に関する事例集に掲載を予定しており、令和8年4月以降に厚生労働省HPに掲載予定です。
- 事例の詳細については、上記事例集をご確認ください。
- また、これまでに公開している事例集についても併せてご活用ください。

The screenshot shows the official website of the Ministry of Health, Labour and Welfare. The page title is '科学的介護情報システム (LIFE) について'. A navigation menu at the top includes 'テーマ別を探す', '報道・広報', '政策について', '厚生労働省について', '統計情報・白書', '所官の法令等', and '申請・募集・情報公開'. A search bar is also present. The main content area features a grid of buttons: 'LIFEリンク', '初回利用', '操作方法・マニュアル', '事例集', '説明会動画・資料', '事務連絡', 'LIFE関連加算様式', and 'システムベンダー向け資料'. A red arrow points to the '事例集' button. On the right, a sidebar menu is visible with categories like '政策について', '分野別の政策一覧', '福祉・介護', and '介護・高齢者福祉'.

## 4 LIFE利活用に関する事例集

厚生労働省委託事業「科学的介護に向けた質の向上支援等事業」で作成した、LIFE利活用に関する事例集を掲載しています。

▷ (令和7年3月版)

[PDF ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム \(LIFE\) の利活用の手引き 付録 令和6年度 事例集 \[1.8MB\]](#)

▷ (令和6年3月版)

[PDF 令和5年度 科学的介護に向けた質の向上支援等事業 事例集 \[5.7MB\]](#)

▷ (令和5年3月版)

[PDF ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム \(LIFE\) の利活用に関する事例集 \[2.8MB\]](#)

▷ (令和4年3月版)

[PDF ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム \(LIFE\) の利活用に関する事例集 \[3.5MB\]](#)